

その他の化学工業における動作の反動無理な動作災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	16~17	荷造り用計量器の精度確認を行うため、ハンドパレット（MAX2000kg）で重り（510kg）を運搬する作業を行っていた。計量器に重りを載せた後、ハンドパレットを引き抜こうとしたときにパレットの一部に当たり引き出しにくかったが、力いっぱい引き抜いた。その拍子に左足を滑らせ、バランスを崩し転倒し、右足靭帯（くるぶしから甲）の損傷を負った。	49	500~999
2	18~19	エージェレス棟2階原末投入室で、秤の置き場所を決めてテープを貼った後、秤（重さ45kg）を二人で運び、テープ内の置き場所に置こうとした際、ひざを伸ばした状態で作業をしたため、腰を痛めた。	31	100~299
2	13~14	外部のイベント会場でお客様用の入浴剤の箱（約7kg）を作業テーブルに載せるため、床から持ち上げた際に腰に激痛を感じた。その後も耐えながら箱の解放、お土産袋詰め作業を続けていたが、痛みが増し休憩した。立ち上がりや歩行も困難になったため、ホテルの車椅子でタクシーに乗り病院へ向かった。	49	1000~9999
3	11~12	化学薬品株式会社にて、薬品の含んだ溶液をポリ容器にて施設の2階へ運ぶ途中に段差に躓き、入っていた溶液の水滴が目・唇にかかり、角膜細胞の損傷、唇の湿疹を負った。	56	10~29
6	17~18	製造現場で10kg入り目の原料（紙袋）を準備用棚の3段目に持ち上げて置いた際、右肩に痛みが発生した。（この時点では治療せず）しばらく様子を見たが痛みがとれない為、病院でレントゲンを撮ったが骨に異常は無かった。その後も改善しない為、別の病院でMRIを撮ったところ、右肩腱が切れている事が分かり、手術が必要と診断された。	47	100~299
	14~	ヘルメットの完成品を1個箱に入れ、その上に緩衝材のダンボールを3つ折りにし		100

11	15	て製品の上から入れる時に肋骨が折れた。（作業中、ポキッとなった。）	54	～ 299
12	15~16	製造工室の大掃除実施中、部品供給装置から部品を抜き出す際に開口部から内部へ身を乗り出し、開口部に体重をかけて作業した。帰宅後に体重をかけていた肋骨部に痛みがあったため、翌日に医療機関を受診したところ、右肋骨不全骨折と診断された。	52	50～ 99
12	9~10	Aラインで充填包装作業をしていた際、台車の上に乗っている2つのポリダル（100L）をリフト台車に1つ移動させた。その後、台車をライン前方へ移動する際に、ポリダルの重心がホールベース外だったので、バランスを崩した台車を立て直そうとした時に（樽の重量で倒れないようにする為）、ビシッという音が腰から聞こえ、傾きかけの台車をまわりの人間に助けてもらった後、その場に蹲り、しばらく動けなかった。痛みが消えない為、しばらく休憩し、その後、病院へ行った。	53	50～ 99

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html